

令和元年6月21日（金）  
令和元年度 第1回  
大阪府河川整備審議会

資料  
1-4

---

---

# 淀川水系西大阪ブロック 河川整備計画(変更原案)について

---

---

# 1. 前回の河川整備計画（H27.3）策定からの動き

## ● 防潮堤液状化対策の推進

平成27年度を初年度として、10年間で対策を完了させる事業計画を策定。津波を直接防御する「第一線防潮ライン（水門より下流側）」の液状化対策を優先し、中でも、地震後に満潮位で浸水が始まる可能性がある区域を最優先で対策工事を実施してきた。

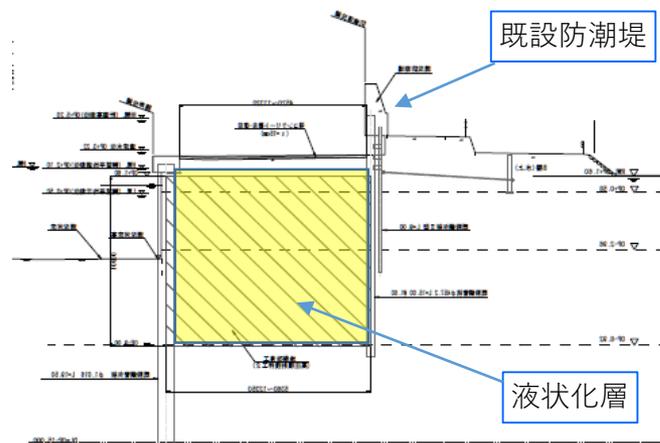
区分		要対策延長	対策済延長	進捗率
地震後の満潮時に浸水	水門より下流側	7.9	7.9	100%
地震後の満潮時に浸水	水門より上流側	16.8	16.8	100%
L1津波で浸水	水門より下流側	9.9	0.0	0%
L1津波で浸水	水門より上流側	9.9	0.0	0%
合計		34.6	24.7	71%

優先順位



### 対策工の例

液状化層の固化により、地震の揺れに対して防潮堤の変位・沈下を抑制し **L1津波高さ以上の高さを確保**



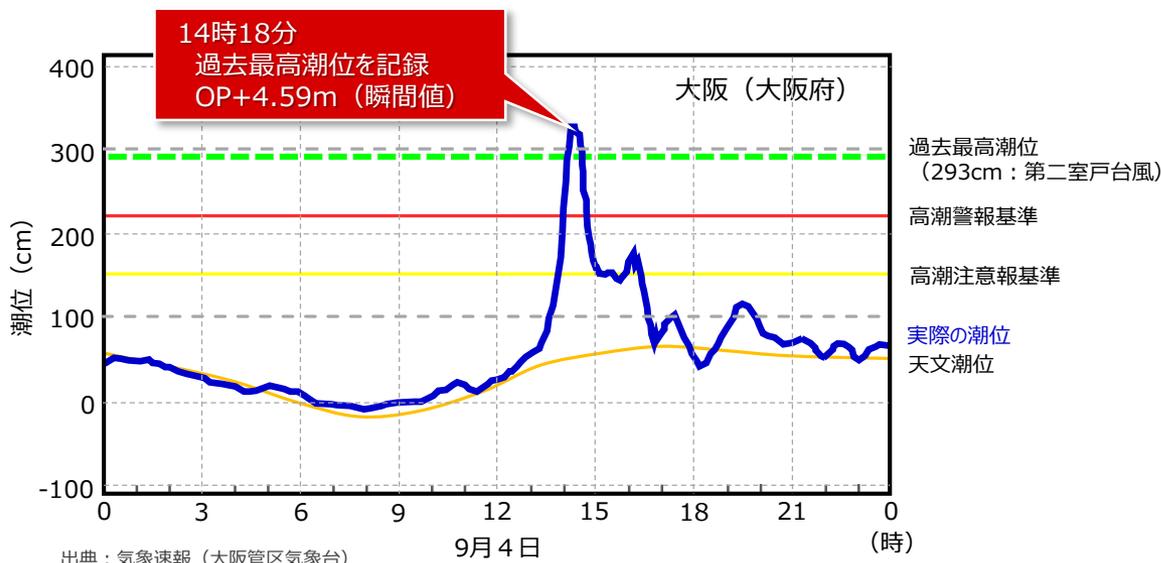
# 1. 前回の河川整備計画（H27.3）策定からの動き

## ● 高潮対策施設が効果を発揮

平成30年台風第21号では、大阪湾で観測史上最高潮位を記録したが、これまで整備を進めてきた高潮対策施設が適切に機能したことにより、大阪市域を高潮被害から守ることができた。

災害事象	上陸時気圧	最大瞬間風速	最高潮位	潮位偏差	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
昭和9年 室戸台風	925hPa	60.0m/s	OP+4.20m	3.11m	166,720	
昭和25年 ジェーン台風	960hPa	44.7m/s	OP+3.85m	2.40m	45,406	35,406
昭和36年 第二室戸台風	925hPa	50.6m/s	OP+4.23m	2.60m	59,198	67,782
<b>平成30年 台風第21号</b>	<b>950hPa</b>	<b>47.4m/s</b>	<b>OP+4.59m</b>	<b>2.77m</b>	<b>0</b>	<b>1※</b>

※内水浸水



高潮の遡上を防ぐ尻無川水門

しかし、大阪を守った三大水門は築造から**約50年が経過（老朽化）**していることに加え、いつ発生するかわからない津波にも対応しなくてはならないため、**早急に対策が必要。**

# 1. 前回の河川整備計画（H27.3）策定からの動き

## ● 河川空間の利活用促進

平成13年に「水都大阪の再生」が国の都市再生プロジェクトに採択されて以来、水の回廊沿いの遊歩道や船着場の整備、橋梁や護岸等のライトアップなどのハード整備、規制緩和による河川空間での賑わい拠点の創出とともに、水都大阪フェス等のソフト事業を展開し、水都に相応しい水辺を活用した魅力づくりを推進。平成27年以降、新たな水辺の魅力づくりや大阪ふれあいの水辺での自然再生を実施してきた。



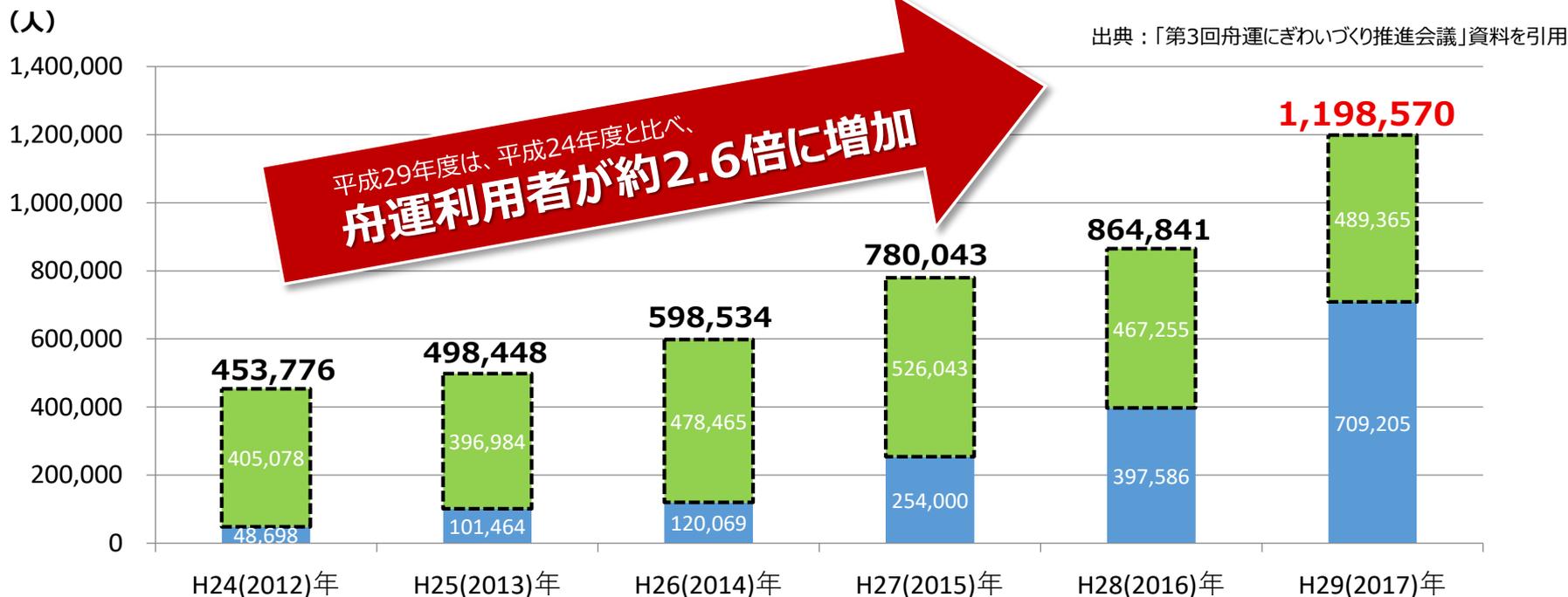
# 1. 前回の河川整備計画（H27.3）策定からの動き

## ● 舟運利用者数の推移

平成29年度の舟運利用者数は、100万人の大台を大幅に上回り、**約120万人**となった。

また、**インバウンドが占める割合は59.2%**と年々伸びており、来阪外客数の増加が舟運利用者数の増加をけん引する形が顕著となった。

年 度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
利用者数（人）	453,776	498,448	598,534	780,043	864,841	1,198,570
対前年増加率	-	1.10 倍	1.20 倍	1.30 倍	1.11 倍	1.39 倍
うちインバウンド【推計】（人）	48,698	101,464	120,069	254,000	397,586	709,205
インバウンドの占める割合	10.7%	20.4%	20.1%	32.6%	46.0%	59.2%

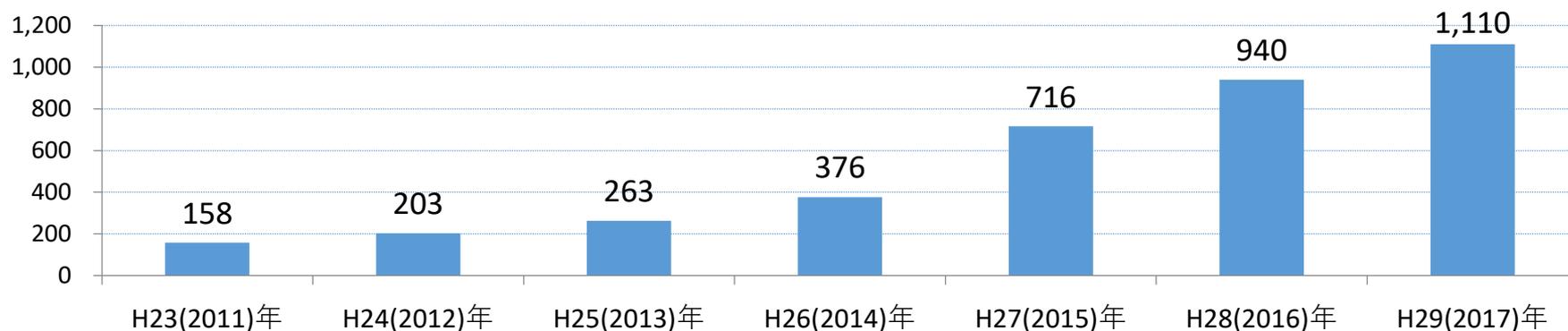


# 1. 前回の河川整備計画（H27.3）策定からの動き

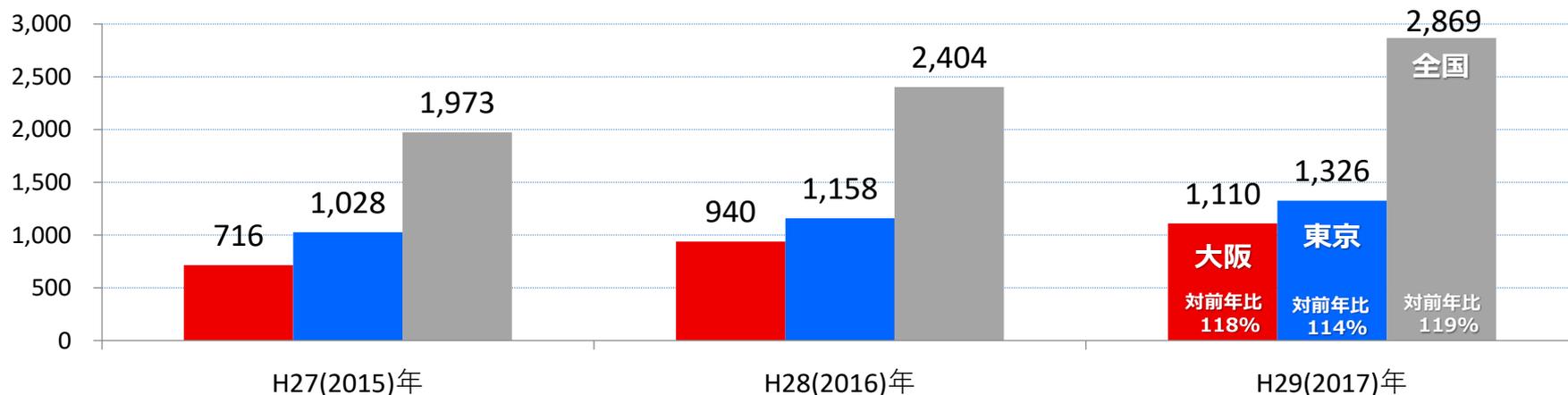
## ● 近年のインバウンドの推移

平成29年に大阪を訪れた外国人は、前年比18%増の**1,110万人**となり、初めて1,000万人を突破した。同期に日本を訪れた外国人が、2,869万人であることから、**訪日客の3人に1人は大阪を訪れている**状況。また、伸び率で前年比約14%増の東京を上回った。

### ■ 来阪外客数の推移（単位：万人）



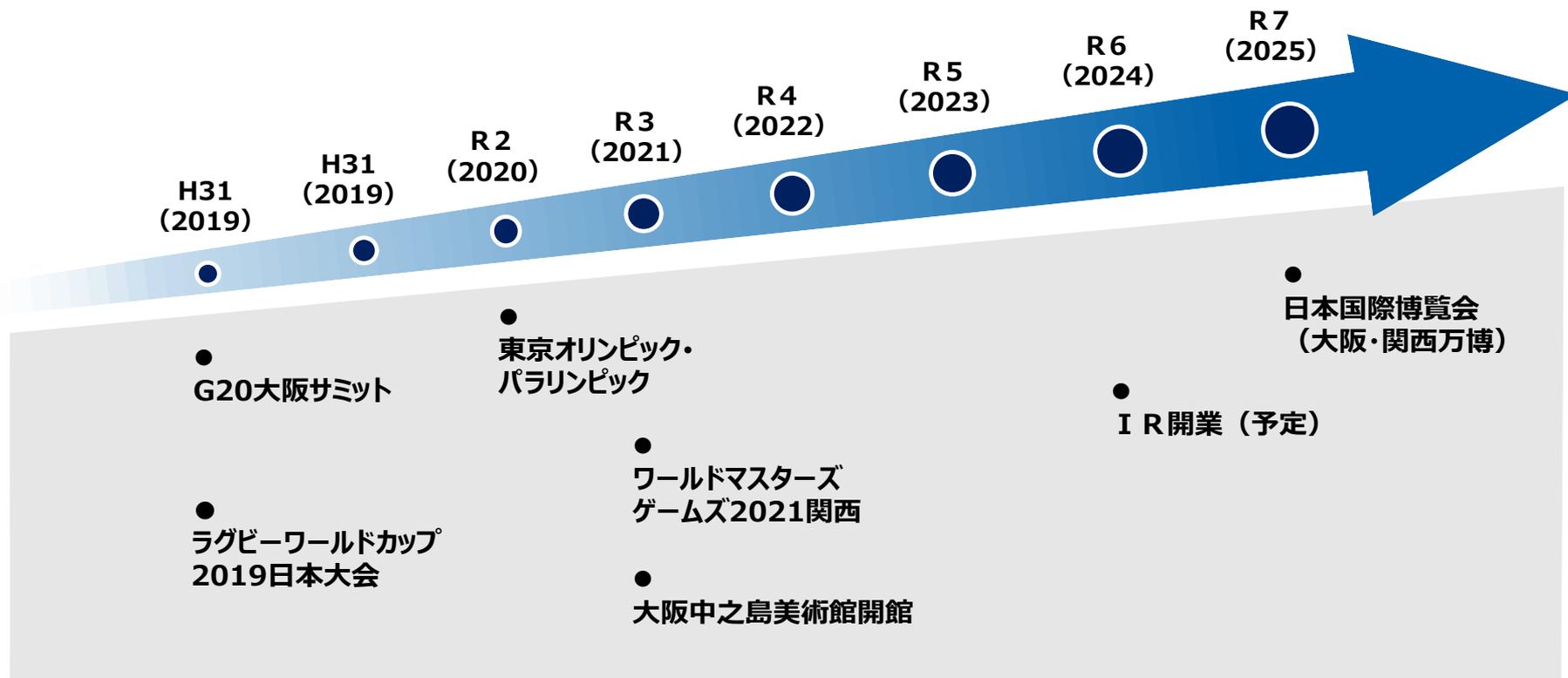
### ■ 来阪外客数の推移（全国、東京との比較）（単位：万人）



# 1. 前回の河川整備計画（H27.3）策定からの動き

## ●ビッグイベントの開催

インバウンドの増加の影響が大きくなるなか、今年開催の「**G20大阪サミット**」や「**ラグビーワールドカップ<sup>®</sup>2019日本大会**」に加え、2020年の「**東京オリンピック・パラリンピック**」、2021年の「**ワールドマスターズゲーム関西**」、さらには、2025年「**大阪・関西万博**」と世界的なイベントが目白押しとなっている。

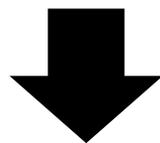


## 2. 河川整備計画の主な変更点

### ● 水門・排水機場等の地震・津波対策

#### 現河川整備計画（H27.3）

津波来襲時には水門閉鎖によって津波を防御しますが、三大水門については、L1（レベル1）津波でもその波力により損傷し、水門を開放操作出来なくなるなど機能が維持できないことが判明しています。しかし、この津波に対する三大水門の補強には多大な費用と時間を要することから、新たな津波防御施設の建設も含めた検討を進めることとします。一方、三大水門が損傷した場合等でも二次被害を防ぐ必要があり、当面の対策として、降雨時に必要な機能として、洪水を流下させるために副水門の開閉機能を確保することから、安治川水門、木津川水門、尻無川水門において副水門や中央堰柱の補強を行います。



大阪府河川構造物等審議会の答申

#### 河川整備計画変更原案（R1.6）

また、津波来襲時には水門閉鎖によって津波を防御しますが、三大水門については、L1（レベル1）津波でもその波力により損傷し、水門を開放操作出来なくなるなど機能が維持できないことが判明したため、当面の対策として、降雨時に必要な機能として、洪水を流下させるために副水門の開閉機能を確保することから、安治川水門、木津川水門、尻無川水門において副水門や中央堰柱の補強を**行いました**。**抜本的な対策として、現水門付近に津波にも対応できる水門を新たに建設することとします。**

## 2. 河川整備計画の主な変更点

### ● 高潮・地震・津波・洪水対策等の課題

#### 現河川整備計画（H27.3）

しかしながら、水門閉鎖時に計画降雨を上回る降雨を経験したという実績から、高潮と計画降雨を上回る降雨が同時生起する台風の発生の可能性も含めて、今後、調査・検討を進めていく必要があります。



地球温暖化に伴う気候変動による水害の**頻発化、激甚化**し、現在の想定を超える被害の**多発**が懸念される



大阪市梅田駅周辺での浸水

#### 河川整備計画変更原案（R1.6）

しかしながら、水門閉鎖時に計画降雨を上回る降雨を経験したという実績から、高潮と計画降雨を上回る降雨が同時生起する台風の発生の可能性や**地球温暖化の進行による気候変動への対応**も含めて、今後、調査・検討を進めていく必要があります。

## 2. 河川整備計画の主な変更点

### ● 河川利用及び河川環境の課題

#### 現河川整備計画（H27.3）

今後も河川空間の利活用については、民間事業者等のニーズに応じて官民が協議のうえで設定した事業エリアの整備を両者が分担して実施するなど、河川空間の利活用事業の促進及び水辺の賑わい創出に協力する必要があります。



舟運利用者数の増加

船舶接触等のインシデントの発生懸念



出典：「第3回舟運にぎわいづくり推進会議」資料を引用

#### 河川整備計画変更原案（R1.6）

今後も河川空間の利活用については、民間事業者等のニーズに応じて官民が協議のうえで設定した事業エリアの整備を両者が分担して実施するなど、河川空間の利活用事業の促進及び水辺の賑わい創出に協力する必要があります。

**また、河川水上交通の安全に対して船舶の航行ルールを定めていますが、今後の大阪・関西万博開催等を見据えて、より航行安全の確保に取り組む必要があります。**